

地域に特徴的な大分県産種子植物

荒 金 正 憲

The Endemic Seed Plants in Oita Prefecture

Masanori ARAKANE

はじめに

大分県は、九州本島の北東部に位置し、面積は6,331km²。その北端は国東半島に浮かぶ姫島で北緯33°44′、南端は宮崎県境にある宇目町桑原山で北緯32°45′。東端は豊後水道域の鶴御崎で東経132°5′、西端は福岡県と境する釈迦ヶ岳・御前岳の山系にあって東経130°50′。県土はほぼ緯度1°、経度2°の範囲にある。

北と東は、周防灘、別府湾、豊後水道の海域に面し、西は犬ヶ岳、英彦山及び津江山地、南は九重火山群並びに祖母・傾山系の峻嶺な山岳地帯。九州本島の最高点が九重火山群にある。

日本の地質を大きく内と外とに分ける中央構造線は佐賀関半島で北東から南西へ斜断する。その北側には、新旧入り混じる火山岩や今なお噴煙をあげる火山を配し、南側は、石灰岩の層を含み、古生代、中生代の地質時代の堆積層や変成岩を置く。それに様々な地形を造りだして変化に富んだ植物の生育環境を構築した。

気候は温暖、年平均気温16℃の等温線はほぼ海岸線に沿って迂曲する。この一帯には、鎮守の森にみるようなシイ林やカシ林の常緑広葉樹林を繁茂させた。豊後水道域の南側は年平均気温17℃、黒潮が洗う無霜地帯で、ピロウやハマオモトなどの亜熱帯植物が生える。等温線は、九重火山を中心として同心円を描いて次第

に低くなり、標高1,000 m以上の山岳地帯で年平均気温は約10℃以下、冬季には積雪をみる。これにはミズナラ林、ブナ林などの落葉広葉樹林が発達する。火山山頂帯では、温度不足に季節風効果も加わって高山帯に似たミヤマキリシマ低木林の風衝地植生が出現し、そのすそ野高原には湿地も形成されて多様な草原群落の生育地となっている。

県内の年間降水量は1,600～2,600ミリ。雨量は植物の生育期間に多い。多雨地帯は県西部の英彦山・津江山地で2,400ミリを超え、この地方のスギ造林を支えてきた。降水量は北に向けて減少し、周防灘に沿う中津・宇佐平地、国東半島は最少雨地域で、マツ造林が広がり、平地や山足の谷間には灌漑用のため池が多く造られ、それには水生・湿地植生が栄えている。

海と山岳、火山と非火山を舞台とした県土は、中国大陸ともかかわって大陸系遺存植物の生育地ともなり、また、四国、紀伊と連なった襲速紀(ソハヤキ)要素の植物をも交え、特色ある多様な植物が生育している。まさに“生きた自然博物館”といっても過言でない。そして、豊国の「緑」は『豊後風土記』にも登場し、私たちの生活の基盤となってきた。

特徴的な種子植物が生育する地域区分

県土を県北地域、県西地域、県東地域、県南地域及び石灰岩地域の5地域に分け、さらに、

地域の自然特性から17区分した。その地域区分の一覧は下記の通りである。

1. 県北地域
 - (1) 周防灘海岸
 - (2) 姫島・国東海岸
 - (3) 中津・宇佐低地
 - (4) 耶馬溪・国東丘陵地
 - (5) 英彦山・犬ヶ岳山地
2. 県西地域
 - (1) 日田低地・丘陵地
 - (2) 津江山地
 - (3) 玖珠山地
 - (4) 由布・鶴見火山群
 - (5) 九重火山群
3. 県中地域
 - (1) 別府湾沿岸域
 - (2) 大分川・大野川丘陵地
4. 県東地域
 - (1) 豊後水道域
 - (2) 豊後水道後背地域
5. 県南地域
 - (1) 大野川上流域
 - (2) 祖母・傾山地
 - (3) 北川上流域
6. 石灰岩地域



図 特徴的な種子植物が生育する地域区分

て鋭意研究活動を展開した。また、大分県の行政と自然環境学術調査会による調査活動も進められ、大分県各地の植物相が次第に明らかにされてきた。こうした成果を集約したものが1989年に刊行された『新版大分県植物誌』である。その刊行後、「大分県植物研究会」を発足し、引き続き調査研究が進められている。

本報は、これまで明らかにされた大分県産の種子植物について、特色ある地域に生育する特徴的な植物をまとめたものである。

掲載した特徴的な植物は、それぞれ生育環境に分けてまとめ、植物名は、裸子植物、単子葉植物、双子葉植物の順に、科ごとに五十音順に掲げてある。これには帰化・逸出植物、雑種及び品種、並びに分布域の広い普通種は除いてある。なお、掲載した植物の中で標本があり、又は文献にあるが、生育地の確認できていないものは△印を付し、当該地域だけに産するものには強調文字で表してある。各地域の植物群落については、従来大分県で用いてきた群集名によった。

県産植物相の研究と特徴的な種子植物

大分県の植物相(フロラ)の調査研究は、賀来飛霞(1816~1894)の本草学採葉記『油布嶽採葉図譜』『杵築採葉記』等に始まり、明治、大正になって多くの学者が来県した。その頃「大分県博物学会」が組織され、調査活動が展開された。『田代善太郎日記』にその当時のことが詳細に記録されている。その成果が『大分県産植物目録』(1923)にまとめられ、さらに『大分県植物誌』(1953)が出版された。

戦後、大分大学を中心とした「大分県生物学会」、「大分県生態談話会」、地方に「生物友の会」「調査会」などが組織され、会誌を発行し

特性ある地域における特徴的な種子植物

1. 県北地域

周防灘に面し遠浅の砂浜が続いている中津・宇佐海岸は、干拓事業や護岸工事、港湾工事などで海岸線はコンクリート壁になってしまつて、塩湿地の植物群落は殆ど消失してしまつている。一方、姫島、国東半島の東海岸には今なお海岸崖地群落や礫浜、砂浜群落が残るが、人為による攪乱が著しい。

穀倉地帯となつている中津・宇佐の平野部は、年間降水量は少なく(1,600ミリ以下)、そのため灌漑用のため池が多く、ため池には水生群落や水湿地群落が発達している。

耶馬溪地方及び国東半島の丘陵地は、耶馬溪溶岩が露出する奇岩・秀峰がそそり立ち、溪谷が刻まれ、“耶馬”と称される景勝地が多い。西側の福岡県境は、犬ヶ岳(1,130.8m)、英彦山(1,199.6m)など1,000mを超える山岳地帯となつている。

(1) 周防灘海岸

山国川、寄藻川、桂川などの河口には、シバナ群落、ホソバノハマアカザ・ハママツナ群集、ハマサジ群集、ナガミノオニシバ群集、フクド群集、シオクグ群集、ヨシ群落、アイアシ群集などがみられ、かつては、塩田跡にシチメンソウ群集もあつたが消滅してしまつた。諸処に防風林として植林されたクロマツ群落やハマゴウ群落もみられる。

海岸林：クロマツ、マサキ、ハマゴウ

塩湿地：シバナ、カワツルモ、コアマモ、ケカモノハシ、ヨシ、ナガミノオニシバ、シオクグ、△フサスゲ、ホソバノハマアカザ、イソホオキギ、△シチメンソウ、ハママツナ、△ヒロハマツナ、ツルナ、ハマエンドウ、ハマゼリ、ハマサジ、ウラギク、ハマグルマ、フクド

(2) 姫島・国東海岸

姫島や国東半島には、安山岩質の海岸断崖が露出して天然性のクロマツ群落が発達し、砂丘の背後地には防風林のクロマツ植林がみられ

る。礫浜や砂浜では、クロマツ・ボタンボウフウ群落、タブノキ・ツワブキ群落、クロマツ・チガヤ群落、ダンチク群落、ハマゴウ群落やハマヒルガオ群落、コウボウムギ群落、コウボウシバ群落、ハマニガナーピロウドテンツキ群集、ギョウギシバ群落、ハマダイコン群落、ハマウド群集などの海岸草地群落がみられる。また、入り江や河川の河口の塩湿地には、ハマボウ群集やシバナ群落などが残っている。

海岸崖地：クロマツ、ハチジョウススキ、キノクニスゲ、ハマアオスゲ、クサスギカズラ、ノシラン、オオノマオ、フジナデシコ、タイトゴメ、シャリンバイ、ハチジョウイチゴ、ホウロクイチゴ、ハマナタマメ、カンコノキ、シマサルナシ、ハマヒサカキ、アキグミ、モチノキ、マサキ、マルバアキグミ、マルバグミ、ハマゼリ、ボタンボウフウ、ハマボス、コバノタツナミ、アシズリノジギク、ツワブキ、ノジギク、ノジカンギク

礫浜：ダンチク、キボウシノ、トゲソバ、ツルナ、カワラサイコ、ハマダイコン、ルリハコベ、シマキケマン、ハマエンドウ、ハマウド、ハマゴウ、ナミキソウ、△ハマウツボ、クマノギク

砂浜：オニシバ、カモノハシ、ケカモノハシ、コウボウシバ、コウボウムギ、ハタガヤ、ピロウドテンツキ、ハマボウフウ、ハマヒルガオ、△ハマネナシカズラ、ハマグルマ、ハマニガナ

塩湿地：カワツルモ、イトクズモ、サガミトリゲモ、アイアシ、ナガミノオニシバ、ヨシ、△アンペライ、シオクグ、ヒトモトススキ、ハマボウ、ハマゼリ、ハマサジ、フクド

水湿地：ヤナギスブタ

海中：アマモ、△ウミヒルモ

(3) 中津・宇佐低地

灌漑用ため池が多く、ヒメガマ群落、ヒシエガガブタ群集、ハンノキ群落など多様な水生・湿地群落がみられる。宇佐神宮にはイチイガシ群集の境内林がある。

林内・林縁：イチイガシ、バリバリノキ、△ツクシカイドウ、バクチノキ、コバンモチ、カ

ラタチバナ, ミミズバイ, クロバイ
 ため池: ヒメガマ, ガマ, ミクリ, ヤマトミクリ, センニンモ, リュウノヒゲモ, ホッスモ, イバラモ, トリゲモ, マルバオモダカ, スブタ, ヤナギスブタ, クロモ, トチカガミ, ミズオオバコ, アイノコカンガレイ, アシカキ, マコモ, ヨシ, イヌクログワイ, ウキシバ, △カガシラ, コウキヤガラ, サンカクイ, セイタカハリイ, フトイ, △ミカワシンジュガヤ, ミスミイ, △オオホシクサ, クロホシクサ, ツクシクロイヌノヒゲ, ヒメコウガイゼキシヨウ, カキツバタ, ハンゲシヨウ, ヒメタデ, ジュンサイ, オニバス, コウホネ, ヒツジグサ, ヒメコウホネ, マツモ, ミズユキノシタ, オニビシ, ヒシ, ヒメビシ, クロモ, タチモ, フサモ, ホザキノフサモ, ガガブタ, ヒメシロアサザ, アサザ, キクモ, ノタヌキモ, タヌキモ, ミカワタヌキモ, アゼムシロ

池畔: アゼガヤ, カモノハシ, コバノウシノシッペイ, チゴザサ, イヌノハナヒゲ, △オノエテンツキ, △クロタマガヤツリ, ツクシナルコ, トラノハナヒゲ, ノグサ, ノテンツキ, ヒメホタルイ, △ムギガラガヤツリ, △ホソバイヌタデ, アカメヤナギ, ジャヤナギ, ハンノキ, ケナガホノシロワレモコウ, アリアケスミレ, ムカゴニンジン, イヌセンブリ, ミズネコノオ, ミズトラノオ, ゴマクサ, △シソバウリクサ, サワトラノオ, スマトラノオ, オギノツメ, ナガエフタバムグラ, ゴキヅル, △カワラハハコ, ツクシタンポポ, チョウセンスイラン, ホソバニガナ

(4) 耶馬溪・国東丘陵地

山国町, 耶馬溪町, 本耶馬溪町, 院内町, 安心院町及び玖珠町にまたがる深耶馬溪, 裏耶馬溪, 仙岩山, そして国東半島の夷, 三畑, 田原山, 津波戸山などは, 凝灰岩の露出した岩角地と溪谷(麗谷・大谷溪谷・岳切溪谷, 錦雲峡など)がつくられている。岩角地には, アカマツヤマトツジ群集, コナラーコバノガズミ群集, イブキシモツケイワヒバ群集, 稀にイワシデ群落, アベマキ群落, 天然性のクヌギ群落が発達し, 谷部の崖や溪谷には, アラカシー

ジャノヒゲ群集, ウラジログアシーサカキ群集, ホソバタブ群落, イロハモミジ群落及びセキシヨウ群落, ナルコスゲ群落, イワタバコ群落などの溪流辺草地群落がみられる。谷部にはスギ植林が広がっている。

岩場: ネズ, チョウセンガリヤス, タチスゲ, △ノハラテンツキ, ヒカゲスゲ, サイコクイワギボウシ, ホトトギス, ウチョウラン, クモラン, シュスラン, セッコク, ヒナラン, マメツタラン, ムギラン, ベニカヤラン, ノグルミ, イワシデ, アベマキ, クヌギ, コバノチョウセンエノキ, ヤマグルマ, イワレンゲ, ウンゼンマンネングサ, キリンソウ, セトウチマンネングサ, タカネマンネングサ, ツシマンネングサ, ツメレンゲ, チャボツメレンゲ, メノマンネングサ, ヤブサンザシ, イブキシモツケ, ザイフリボク, ツチグリ, ナンキンナナカマド, ピロウドイチゴ, チョウセンニワフジ, フジキ, フユザンシヨウ, アラゲミツバツツジ, カラムラサキツツジ(ゲンカイツツジ), ツクシシャクナゲ, クロミノサワフタギ, ホソバヤマジソ, シコクマコナ, ホソバママコナ, トラノオスズカケ, イワギリソウ, オヤمامグラ, イヌヨモギ, イヨアブラガヤ, カワラヨモギ, ノジギク, ブゼンノギク

林内・林縁: △ウエマツソウ, アラカシ, イチイガシ, ケタガネソウ, サツマスゲ, ミヤマナルコユリ, シロシャクジョウ, シリブカガシ, ノグルミ, コブシ, タムシバ, シイモチ, ナガバヒゼンマユミ, ケンボナシ, シャクジョウソウ, レンゲツツジ, ナガバジュズネノキ, ニセナガバジュズネノキ, ホソバニセジュズネノキ, ルリミノキ, ホタルカズラ, コミヤマガズミ, ハクサンボク, カセンソウ
 溪谷・溪流辺: セイタカヨシ, ハイチゴザサ, ヒナザサ, イナコスズ, イブキザサ, ケナシカシダザサ, ゲンケイチク, ニッコウザサ, ホソバスズダケ, リュウキユウチク, アキカサスゲ, オクノカンスゲ, シラコスゲ, ジングウスゲ, ツクバスゲ, ツルナシオオイトスゲ, ナルコスゲ, フサナキリスゲ, ミヤマイ

ワスゲ、ミヤマカンスゲ、ナンゴクウラシマソウ、ヒメウラシマソウ、キエビネ、クマガイソウ、コケイラン、サルメンエビネ、トケンラン、ナギラン、ナツエビネ、フウラン、ヒトツボクロ、ベニシュスラン、イワガネ、ミヤコミズ、クロフネサイシン、タイリンアオイ、ミヤコアオイ、マルミノヤマゴボウ、アブラチャン、キケマン、コンロンソウ、オオチャルメルソウ、イワボタン、シロバナネコノメ、コガネネコノメ、バイカアマチャ、ヒメウツギ、ブンゴウツギ、**コウヤミズキ**、エドヒガン、コバノフエイチゴ、ヒメバライチゴ、モリイバラ、ヤマイバラ、サイカチ、ミヤマトベラ、マツバニンジン、ヤマアイ、タマミズキ、サワダツ、クロタキカズラ、イロハモミジ、メグスリノキ、イソノキ、コバノクロウメモドキ、ウラジロマタタビ、イイギリ、ウシタキソウ、**△ドクゼリ**、コバノハナイカダ、ツルアリドオシ、アクシバ、ケアクシバ、**オニコナスビ**、**キシツツジ**、ヤマトアオダモ、オオルリソウ、スズコウジュ、ツクシタツナミ、ツルアキノタムラソウ、**△ケナシイヌゴマ**、ヤマホオズキ、イワタバコ、タニガワコンギク

水湿地：ヒメミクリ、イトトリゲモ、アイノコカンガレイ、カンガレイ、ミスミイ、マツカサススキ、オオホシクサ、クロホシクサ、**ホシクサ**、**△ミズアオイ**、ミヤマイワスゲ、サギソウ、ミズチドリ、**△コウライヤナギ**、ジュンサイ、ヒツジグサ、ミツガシワ

その他：コウボウ、ヒメユリ、**△ササユリ**、キンバイザサ、**△タチハコベ**、**△イヌトウキ**、コイケマ、**△ツクシタンポポ**

(5) 英彦山・犬ヶ岳山地

犬ヶ岳、経読岳、鷹巣山・英彦山などの800～1,200 mの低山地や山地帯。丘陵地から山地まで殆どスギ植林に被われていて自然植生は少ない。下方からアラカシージャノヒゲ群集、ウラジログシ-サカキ群集、ツガー-ハイノキ群集、モミーシキミ群集及びブナ-スズタケ群集がみられ、稀に尾根岩場には天然性のヒノキ群落がある。溪谷には、シオジー-ミヤマクマワラ

ビ群集、ケヤキーイロハモミジ群集、サワグルミ群落、カツラ群落が点在している。

林内・林縁：ハリモミ、モミ、ツガ、ヒメコマツ、ヒノキ、イワタケソウ、**ホガエリガヤ**、**△ウラハグサ**、**ミヤコザサ**、**アオヒエスゲ**、**サイコクイワギボウジ**、**ミヤマナルコユリ**、ウチョウラン、**△エゾスズラン**、**△スズムシソウ**、**セイタカスズムシソウ**、セッコク、トケンラン、**△フガクスズムシソウ**、**ベニカヤラン**、**アオナラガシ**、**イヌブナ**、**ブナ**、**ヤマグルマ**、**タムシバ**、**アオベンケイ**、**オオヤマレンゲ**、**シロモジ**、**ウンゼンマンネングサ**、**タカネマンネングサ**、**メノマンレネングサ**、**ヤシャビシヤク**、**ダイヤモンドソウ**、**マンサク**、**△イワガサ**、**イブキシモツケ**、**ヤマブキシヨウマ**、**ツルキンバイ**、**イソノキ**、**フウリンウメモドキ**、**△ヨコグラノキ**、**ナツツバキ**、**ヒコサンヒメシャラ**、**△ホコバスマレ**、**キガンピ**、**ミヤマガンピ**、**アラゲミツバツツジ**、**ウスノキ**、**カラムラサキツツジ**、**ツクシシヤクナゲ**、**バイカツツジ**、**ヒカゲツツジ**、**ヤクシマホツツジ**、**△コハクウンボク**、**フジイボタ**、**ケミヤマナミキ**、**シコクママコナ**、**ツクシトウヒレン**

溪谷・溪流辺：アズマガヤ、**△ヒロハノハネガヤ**、**△コメガヤ**、**アオバスゲ**、**アオヒエスゲ**、**△カンスゲ**、**オクノカンスゲ**、**△タカネマスキサ**、**タマツリスゲ**、**ミヤマカンスゲ**、**△ヒロハテンナンショウ**、**ミツバテンナンショウ**、**△ナベワリ**、**タマガワホトトギス**、**ホソバナコバイモ**、**オオキツネノカミソリ**、**アオフタバラン**、**アケボノシュスラン**、**コケイラン**、**サルメンエビネ**、**ツリシュスラン**、**ヒトツボクロ**、**△ヒメノヤガラ**、**△ナツエビネ**、**サワグルミ**、**カツラ**、**サワシバ**、**△ミヤマイラクサ**、**△コケミズ**、**△タチゲヒカゲミズ**、**タイリンアオイ**、**クロフネサイシン**、**ワチガイソウ**、**サワハコベ**、**ヤマシヤクヤク**、**ルイヨウボタン**、**ヤマブキソウ**、**アカショウマ**、**イワボタン**、**オオチャルメルソウ**、**△センダイソウ**、**ツクシネコノメソウ**、**ブンゴウツギ**、**クロタキカズラ**、**コバノフエイチゴ**、**ヒメバライチ**

ゴ、モリイバラ、コミヤマカタバミ、ツルシキミ、サワダツ、クロタキカズラ、メグスリノキ、△アオカズラ、ヒナノウスツボ、△オオクマヤナギ、シコクスミレ、ヒカゲスミレ、ミヤマヤブニンジン、アクシバ、オオバアサガラ、シオジ、ハクウンボク、ヤマトアオダモ、サイコクイボタ、シノノメソウ、ツクシガシワ、△ニシキゴロモ、ヤマトウバナ、オオマルバノテンニンソウ、キバナアキギリ、ケミヤマナミキ、ツクシタツナミ、ミヤマナミキ、ヒナノウスツボ、オオキヌタソウ、ホソバコンギク、オオマルバノテンニンソウ、ツルギキョウ、テバコモミジガサ

その他：△ヒメシャガ、△イヌマムカゴ、トンボソウ、△トリガタハンショウヅル、レンゲツツジ、ヤマウツボ、△カンサイタンポポ、△ミヤマヨメナ

2. 県西地域

県内での最多雨地域。天然林の殆どがスギ林に置き換えられてしまっている。日田盆地周辺地と釈迦ヶ岳・御前岳で代表される津江山地、並びに玖珠地方の火山や九重火山群及び由布岳一帯を含めた火山地域。これらの山岳地域には、御前谷、九酔溪、鳴子川溪谷、暮雨溪谷などの溪谷があつて、シオジやサワグルミ、トチノキを優占種とする溪谷林が諸処に残存している。

(1) 日田低地・丘陵地

日田盆地、大山町、天瀬町などの低地や丘陵地。殆どスギ植林で占められ、一部にコジイ・シイモチ群集、溪谷沿い崖地にアラカシージャノヒゲ群集が帯状に分布している。天瀬町曾田ノ池周辺に水湿地がある。

林内・林縁：ツガ、トウササクサ、イブキザサ、ナリヒラタケ、△ヒゼンナリヒラ、△ノハラテンツキ、ツクシアブラガヤ、ミヤマカンスゲ、ヒメサルトリイバラ、カヤラン、キエビネ、ヒトツボクロ、アオナラガシワ、アラカシ、イワガネ、ボロボロノキ、ヤナギイノコズチ、アオハコベ、ハナカズラ、コウモリカズラ、ブンゴウツギ、マルバコウツギ、ヒメバライチゴ、ピロウドイチゴ、ツクシハギ、

チョウセンヤマハギ、シイモチ、フシノハアワブキ、シラガブドウ、シャク、クロミノサワフタギ、クロミノニシゴリ、カラタチバナ、レンゲツツジ、ツルアキノタムラソウ、ヤマホオズキ、カギカズラ、ニセナガバジュズネノキ、コミヤマガマズミ、ツルギキョウ、ピッチュウアザミ、ツクシトウヒレン

水湿地：イトモ、エビモ、ホソバミズヒキモ、△セキショウモ、オモダカ、オニスゲ、△アキカサスゲ、カサスゲ、オタルスゲ、ゴンゲンスゲ、オオミズハナビ、ツクシアブラガヤ、カキツバタ、ノハナショウブ、トキシソウ、チョウセンネコヤナギ、ジュンサイ、タコノアシ、ヒメビシ、フサモ、ムラサキミミカキクサ、オギノツメ

草地：コウボウ、△ツクシスズメノカタビラ、△ササバラ

(2) 津江山地

年間降水量2,400ミリ以上の多雨地域。殆どスギ植林地で被われている。標高1,000mを超える岳滅鬼山、御前岳、釈迦ヶ岳、渡神岳、酒吞童子山の山頂部や谷の極く一部にウラジロガシ・サカキ群集、ミズナラ群落、モミ・シキミ群集、ブナ・スズダケ群集や溪谷のシオジ・ミヤマクマワラビ群集などが残っている。上津江村には春日湿原がある。

尾根岩場：ハリモミ、ヒメコマツ、ツガ、コイワカンスゲ、セッコク、アラゲミツバツツジ、シロドウダン、シコクママコナ

林内・林縁：モミ、ホッサガヤ、ウラゲスズダケ、スズダケ、ツクバスゲ、ヒトヨシテンナンショウ、キバナチゴユリ、サイコクイワギボウシ、チュウゴクホトトギス、オオハクウンラン、オオヤマサギソウ、アオフタバラン、アケボノシュスラン、シュスラン、ヨウラクラン、ブナ、コバナチョウセンエノキ、ボロボロノキ、ヤマグルマ、△コウモリカズラ、タムシバ、シロモジ、ヒメクロモジ、ケナシヤシャビシャク、ヤシャビシャク、チョウセンヤマハギ、ツクシハギ、ツルシキミ、シコクスミレ、ミヤマガンピ、オニノダケ、ツクシシャクナゲ、ツクバキンモウソウ、△シシ

ンラン、キオン、タカネコウリングク、ツクシトウヒレン、ヤマボクチ

渓谷・溪流辺：ヒロハノハネガヤ、ミヤマイワスゲ、アオバスゲ、オクノカンスゲ、シラコスゲ、フサナキリスゲ、ミヤマカンスゲ、ワタリスゲ、ミツバテンナンショウ、オオキツネノカミソリ、コケイラン、サルメンエビネ、ナツエビネ、ナヨテンマ、サワグルミ、オヒョウ、タイリンアオイ、ヤナギイノコズチ、ワチガイソウ、カツラ、ユリワサビ、ギンバイソウ、ハイサバノオ、コチャルメルソウ、ナメラダイモンジソウ、エドヒガン、コバノフユイチゴ、ヒメバライチゴ、モリイバラ、フジキ、コミヤマカタバミ、クロタキカズラ、メグスリノキ、フシノアワブキ、エンシュウツリフネ、オオクマヤナギ、イソノキ、コバノクロウメモドキ、ウラジロマタタビ、イイギリ、ハナビゼリ、オオマルバノテンニンソウ、キバナアキギリ、**タカクマヒキオコシ**、ツクシタツナミ、マネキグサ、ミヤマナミキ、ハシリドコロ、ヒナノウスツボ、ミヤマコナスビ、シオジ、ヤナギイボタ、ツクシガシワ、オニルリソウ、テバコモミジカサ、メタカラコウ、**モミジタマブキ**

草原・湿地：イヌエノコロ、ヒロハノドジョウツナギ、ノヒメユリ、カキツバタ、オグラセンノウ、ノカラマツ、チョウセンヨメナ、ヒゴシオン、ホソバオグルマ

その他：△ビゼンナリヒラ、コンゴウタケ、△キケンショウマ、△イヌトウキ、フトボナギナタコウジュ、ニシヨモギ

(3) 玖珠山地

万年山 (1,140.2m) ・大岩扇 (691.1m) などの筑紫溶岩台地 (メーサ)、福万山 (1,235.9m) などの山地。その山間に玖珠盆地、鶴ヶ原・内匠・仲田・ウルガ水・日出生台などの草原や湿地、池をみる。山頂部にはミヤマキリシマーマイズルソウ群集、断崖ではミズナラ群落、コナラ群落が発達しているが、多くはクヌギ植林、スギ・ヒノキ植林が施されている。日出生台湿原にはヨシヤマアゼスゲ群集やヤチカワズスゲ群落、ヒツジクサ群落、ジュンサイ群落など

が発達している。

林内・林縁：ホガエリガヤ、ヒロハノハネガヤ、イブキザサ、ウンゼンザサ、コンゴウタケ、タンガザサ、コジュズスゲ、ショウジョウスゲ、△ノハラテンツキ、**ツクシアブラガヤ**、**ホソシラスゲ**、ヒメウラシマソウ、オニノヤガラ、ハナカズラ、**ブンゴボダイジュ**、ホソバナコバイモ、ヤマブキソウ、△ホコバスマレ、ウラゲウコギ、シラカワボウフウ、サイコクミツバツツジ、ミヤマキリシマ、ヒカゲツツジ、レンゲツツジ、△ムラサキ、ホソバママコナ、イヌヨモギ、イワギク、キオン、キクバヤマボクチ、ビッチェウアザミ

渓谷・溪流辺：オクノカンスゲ、シラコスゲ、ピロウドスゲ、ワタリスゲ、バイケイソウ、オオキツネノカミソリ、クロフネサイシン、タイリンアオイ、ミヤコアオイ、ルイヨウボタン、ヤマシヤクヤク、ヤマブキソウ、クロタキカズラ、エンシュウツリフネ、ウラジロマタタビ

草原・湿地：ヒメミクリ、フトヒルムシロ、エゾノサヤヌカグサ、ヌマガヤ、イヌトクガワザサ、イトイヌノハナヒゲ、オニスゲ、エゾアブラガヤ、エゾツリスゲ、オタルスゲ、クジュウツリスゲ、クログワイ、コマツカサススキ、タチスゲ、ツルカミカワスゲ、**ツクシカンガレイ**、ヒメカンガレイ、ヤチカワズスゲ、キスゲ、ヒメユリ、カキツバタ、ノハナショウブ、コバノトンボソウ、サギソウ、トキソウ、ミズチドリ、チョウセンネコヤナギ、ハシバミ、ジュンサイ、ヒツジグサ、ノカラマツ、タンナトリカブト、リュウキンカ、バйкаカリソウ、イヨフウロ、キスマレ、ヒメアギスマレ、シムラニンジン、サクラソウ、ゴマクサ、ツクシシオガマ、サワギキョウ、**コウリングク**、チョウセンスイラン

その他：△ウマスゲ、△ツクバネ、△ヒメバйкаモ、ツクシタンポポ

(3) 由布・鶴見火山群

山陰火山の由布岳 (1,583.5m)、鶴見岳 (1,1374.5m) がまとまる。山頂帯はミヤマキリシマーマイズルソウ群集。草原は次第に森林化

し、ノリウツギ群落、ツクシヤブウツギ群落、コナラ群落、シデ群落、ブナ群落へと推移している。草原はススキーヒロハヤマヨモギ群集が特徴的で、エヒメアヤメ、ヒゴタイなどの大陸系遺存植物を多産する。火山群の山麓にみられる猪の瀬戸湿原のヨシーヤマアゼスゲ群落、塚原のジャヤナギ群落、神楽女湖のヒツジグサ群落などの特徴的な群生地がある。

火山山頂：アオウシノケグサ、カリヤスモドキ、キリシマノガリヤス、クジュウガリヤス、チシマカニツリ、コイワカンスゲ、ショウジョウスゲ、ネバリノギラン、チャボゼキシノウ、マイヅルソウ、オオヤマレンゲ、ヤマオダマキ、ノリウツギ、コウツギ、イワキンバイ、ツルキジムシロ、ミヤマザクラ、イヨフウロ、イワアカバナ、イワカガミ、サイコクミツバツツジ、シロドウダン、ミヤマキリシマ、フジイボタ、ニシキウツギ、キリシマヒゴタイ、タカネコウリンギク

林内・林縁：△ホンゴウソウ、ハネガヤ、タマツリスゲ、バイケイソウ、ミヤマナルコユリ、ヒナノシャクジョウ、オニノヤガラ、ギボウシラン、シュスラン、セイタカスズムシソウ、カシワ、コナラ、ミヤコアオイ、ミヤマツチトリモチ、フシグロセンノウ、カザグルマ、タンナトリカブト、レイジンソウ、ミヤマヤブニンジン、ヤマウツボ、△アソヨモギ、カシワバハグマ、キクバヤマボクチ、ミヤマアキノノゲシ

渓谷・溪流辺：ミドリヨウラク、ヤマシャクヤク、ケナシベニバナヤマシャクヤク、ヤマエンゴサク、シコクハタザオ、ワタベソウ、ケミヤマナミキ

草原・湿地：△イヌノヒゲ、イトテンツキ、エゾツリスゲ、クジュウツリスゲ、シカクホタルイ、チュウゼンジスゲ、ホッスガヤ、フトボタニガワスゲ、マツカサススキ、ヤマアゼスゲ、キスゲ、ホソバナアマナ、ヒメユリ、エヒメアヤメ、ノハナショウブ、ワダソウ、マイサギソウ、フクジュソウ、バイカイカリソウ、ツチグリ、コウライトモエソウ、タカネオトギリ、サクラスミレ、キスミレ、シラ

ハノダケ、ツクシゼリ、ツクシボウフウ、ヒメノダケ、ミシマサイコ、サクラソウ、ムラサキセンブリ、チョウジソウ、エゾシロネ、カイジンドウ、ヤマジソ、キウシュウコゴメグサ、オオホソバトラノオ、ヤマトラノオ、オオナンバンギセル、ムラサキミミカキグサ、バアソブ、サワギキョウ、アソノコギリソウ、オケラ、ケショウヨモギ、キクアザミ、△コウリンギク、タカネコウリンギク、チョウセンスイラン、チョウセンヨメナ、ツクシタンポポ、ヒゴシオン、ヒゴタイ、ヒロハヤマヨモギ、マアザミ、モリアザミ、ヤナギアザミ、ヤブヨモギ

(4) 九重火山群

山陰火山のトロイデで、久住山 (1,786.9m)、三俣山 (1,744.8m)、黒岩山 (1,502.6m)、涌蓋山 (1,499.5m)、大船山 (1,787.1m) などが火山群をつくり、裾野に飯田高原、久住高原をひき、地蔵原、タデ原、坊がツル、小田の池などの湿原を擁する。

山頂帯から山麓の谷部へ森林化し、ミヤマキリシマーマイズルソウ群集及びココモモ亜群集、ノリウツギヤマカモグサ群集、ミズナラーリョウブ群集、ブナースズタケ群集やブナーツクシシャクナゲ群集、コミネカエデーナカマド群集をみる。湿原ではヨシーヤマアゼスゲ群集、ヌマガヤースマクロボスゲ群集、溪流辺にハンノキ群落が発達し、草原はススキートダシバ群集、ススキーヒロハヤマヨモギ群集がみられ、キスミレ、エヒメアヤメなどの大陸系遺存植物も生育しており、植物相は極めて多様で、この地域に専在する植物が多い。

山頂帯：イチイ、ツクシビヤクシン、アオウシノケグサ、イシツチコウボウ、キリシマノガリヤス、クジュウガリヤス、コメススキ、ミヤマヌカボ、アズマザサ、アポイザサ、イヌトクガワザサ、ウツクシザサ、ウンゼンザサ、エチゼンネザサ、オオクマザサ、オオシダザサ、ゲンケイチク、タンゴシノ、ツクバナブスズ、ニッコウザサ、ヒシュウザサ、ビッチュウミヤコザサ、ヒダノミヤマクマザサ、ミヤコザサ、ミヤマクマザサ、コイワカンス

ゲ、ショウジョウスゲ、タマツリスゲ、ヒメ
スゲ、マイヅルソウ、ヤマオダマキ、ミヤマ
カラマツ、ノリウツギ、マンサク、△サビバ
ナナカマド、ナナカマド、ミヤマウラジロイチ
ゴ、ミヤマザクラ、ヤマブキショウマ、イワ
カガミ、ウスノキ、ツクシドウダン、ツクシ
シャクナゲ、ニシキウツギ、シロドウダン

林内・林縁：アズマガヤ、コメガヤ、ホガエリ
ガヤ、ムカゴツヅリ、ヤマトボシガラ、△ナ
ベワリ、キバナノアマナ、シロバナエンレイ
ソウ、バイケイソウ、ミドリヨウラク、ワニ
グチソウ、キクバドコロ、アオフタバラン、
△コウライヤナギ、ツノハシバミ、カシワ、
ミズナラ、ブナ、オヒョウ、アカソ、クサコ
アカソ、ホソバイラクサ、ナガバイラクサ、
ミヤマツチトリモチ、フシグロセンノウ、ワ
チガイソウ、オオヤマハコベ、ノミノコブス
マ、カツラ、アズマイチゲ、△キクザキイチリ
ンソウ、ケナシベニバナヤマシャクヤク、サ
バノオ、タンナトリカブト、トウゴクサバノ
オ、ハナカズラ、フクジュソウ、ヤマシャク
ヤク、ルイヨウショウマ、レイジンソウ、オ
オバメギ、ルイヨウボタン、イカリソウ、ヒ
メエンゴサク、ヤマエンゴサク、ヤマブキソ
ウ、シコクハタザオ、マルバコウツギ、ワタ
ナベソウ、オオウラジロノキ、エドヒガン、
フジキ、オオヤマカタバミ、テツカエデ、△
ナンゴクミネカエデ、トチノキ、エンシュウ
ツリフネ、△ケナシシナノキ、ツクシボダイジ
ュ、イワセントウソウ、ウラゲウコギ、カノ
ツメソウ、ハナビゼリ、△フキヤミツバ、ミ
ヤマウコギ、ヨウラクツツジ、タンナサワフ
タギ、オニイボタ、ツクシガシワ、ツルガシ
ワ、オオマルバノテンニンソウ、ジャコウソ
ウ、タニジャコウソウ、△カリガネソウ、ハ
シリドコロ、コクワガタ、オオバノヨツバム
グラ、△ウスユキムグラ、ウスバヒョウタン
ボク、シコクコウモリソウ、ニシノヤマタイ
ミンガサ、ヒロハヤマヨモギ

草原・湿地：ナガエミクリ、オヒルムシロ、コ
ウボウ、カリヤスモドキ、ヌマガヤ、チシマ
カニツリ、ヒナザサ、ヒロハドジョウツナギ、

ホッスガヤ、イトテンツキ、エゾツリスゲ、
エゾハリイ、オオアゼスゲ、オオイヌノハナ
ヒゲ、オオヌマハリイ、オニナルコスゲ、ク
ジュウスゲ、クジュウツリスゲ、コイワカン
スゲ、コハリスゲ、サドスゲ、シズイ、チュ
ウゼンジスゲ、ヌマクロボスゲ、△ノハラテ
ンツキ、△ハタバスゲ、ピロウドスゲ、フト
イ、ミカツキグサ、ミタケスゲ、ヤチカワズ
スゲ、ヤマアゼスゲ、クジュウイヌノヒゲ、
ツクシクロイヌノヒゲ、ツクシイヌイ、△マ
ツバコウガイゼキショウ、キスゲ、ノヒメユ
リ、タマボウキ、ヒメユリ、ホソバナアマナ、
マイヅルソウ、エヒメアヤメ、ノハナショウ
ブ、アオフタバラン、オオハクウンラン、キ
バナショウキラン、コバノトンボソウ、ショ
ウキラン、サギソウ、ツクシチドリ、ツリシ
ュスラン、マイサギソウ、ミズトンボ、ミズ
チドリ、ハシナガヤマサギソウ、ヤマサギソ
ウ、トキソウ、ヤマトキソウ、ユウシュンラ
ン、イヌコリヤナギ、ケハンノキ、ハンノキ、
ハシバミ、イブキトラノオ、サイコクヌカボ、
ヤナギヌカボ、オグラセンノウ、ワダソウ、
フクジュソウ、ヤマオダマキ、リュウキンカ、
ノカラマツ、テリハアカショウマ、ダイモン
ジソウ、イワキンバイ、クサボケ、ケナガホ
ノシロワレモコウ、ナガホノシロワレモコウ、
シモツケソウ、ツルキジムシロ、オオバクサ
フジ、ツルフジバカマ、ヒメヨツバハギ、ヨ
ツバハギ、イヨフウロ、タチフウロ、ツクシ
フウロ、アゼオトギリ、コウライトモエソウ、
△タコアシオトギリ、タカネオトギリ、ミズ
オトギリ、キスミレ、サクラスミレ、ホソバ
シロスミレ、タチスミレ、ヒメアギスミレ、
ヒカゲスミレ、イヌトウキ、サワゼリ、シム
ラニンジン、シラカワボウフウ、シラハノダ
ケ、ツクシゼリ、ツクシボウフウ、ムカゴニ
ンジン、イワカガミ、ウスノキ、コケモモ、
ミヤマキリシマ、ヤクシマホツツジ、クサレ
ダマ、サクラソウ、ミツガシワ、アオカモメ
ヅル、タチカモメヅル、マルバカモメヅル、
ハナシノブ、エゾシロネ、カイジンドウ、ヒ
メサルダヒコ、オオホソバトラノオ、ツシマ

ママコナ、ツクシクガイソウ、ツクシシオガマ、ナンゴククガイソウ、△ヒロバトラノオ、ホソバヒメトラノオ、ママコナ、ヤマトラノオ、ムラサキミミカキグサ、ハナムグラ、ヤツシロソウ、サワギキョウ、アソノコギリソウ、イワギク、オタカラコウ、**カンサイタンポポ**、キリシマヒゴタイ、ケショウヨモギ、シオン、コウリングク、タカネコウリングク、チョウセンスイラン、ツクシアザミ、ツクシタンポポ、△**テリハアザミ**、ヒゴシオン、ヒゴタイ、ホソバオグルマ、メタカラコウ、モリアザミ、ヤブヨモギ

噴気地帯：ツクシテンツキ

4. 県中地域

別府湾岸とその低地、大分川流域、大野川下・中流域の丘陵地。別府湾岸は埋立、港湾、護岸が施され、自然海岸は殆ど消滅してしまった。その背後地となる河川も護岸工事のため多くは改変されており、丘陵地にも人類文化地が広がっている。

(1) 別府湾沿岸域

佐賀関半島西側にハマビワ・オニヤブソテツ群集、日出・杵築海岸にダンチク群落、ハマボウ群集、ハマゴウ群落、ヨシ群落、シオクグ群集、コウボウムギ群落、ハマサジ群集、シバナ群落、ナガミノオニシバ群集が残るが、別府市・大分市の海岸は自然海岸は消滅状態である。低地のアラカシージャノヒゲ群集やコジークロキ群集も市街地の拡大で侵食され喪失している。

林内・林縁：ダンチク、リュウキュウチク、ミヤマクマザサ、シラン、ムカデラン、タシロラン、アキザキヤツシロラン、ムヨウラン、カヤラン、ツクシオオナラ、ハナガガシ、イワガネ、オオバヤドリギ、ミヤコアオイ、バйкаカリソウ、ハスノハカズラ、ハマビワ、バリバリノキ、バクチノキ、マツバニンジン、ハマセンダン、カンコノキ、ケケンボナシ、シャク、カラムラサキツツジ、カラタチバナ、タイミンタチバナ、ミミズバイ、ホタルカズラ、フチゲハグロソウ、ヘツカニガキ、イズ

ハハコ、キクアザミ、△ウスユキキクアザミ
草地・湿地：ヤマトミクリ、カモノハシ、アイアシ、セイタカヨシ、カタスゲ、△トラノハナヒゲ、コウキヤガラ、ゴマシオホシグサ、マルバツユクサ、ヒメコウガイゼキショウ、オオバジャノヒゲ、ハンゲショウ、アカメヤナギ、タチヤナギ、△ハンノキ、ウラジロアカザ、ジュンサイ、タコノアシ、カワラサイコ、**ヒナノカンザシ**、ミズハコベ、ミゾハコベ、アリアケスマレ、ヌマトラノオ、イヌセンブリ、アオイゴケ、ムラサキ、ミズネコノオ、シロネ、ヒメナミキ、ゴマクサ、マルバノトウガラシ、キクモ、**スズメノハコベ**、ケムシクサ、タカサゴソウ、ホソバニガナ、ヒナヒゴタイ

海岸：シバナ、コアマモ、ケカモノハシ、ハマヒエガエリ、オニシバ、ナガミノオニシバ、ハタガヤ、フサスゲ、コウボウシバ、ヒトモトススキ、ピロウドテンツキ、イソヤマテンツキ、ハマオモト、ウバメガシ、ツルソバ、イソホオキギ、ヒロハマツナ、ハママツナ、ツルナ、フジナデシコ、ハマビワ、タイトゴメ、ハマナタマメ、ハマエンドウ、イワタイゲキ、△ハマナツメ、ハマボウ、マルバグミ、ハマゼリ、ハマボウフウ、ハマボッス、ハマサジ、イヨカズラ、ハマゴウ、△コナミキ、△ナミキソウ、フクド、ウラギク、ハマニガナ、クマノギク、ハマグルマ、△**オオハマグルマ**

噴気地帯：ツクシテンツキ

その他：**ケナシイワアカバナ**、△**ヒメアカバナ**

(2) 大分川・大野川丘陵地

大分川流域の狭間町、庄内町、湯布院町の丘陵地、大野川流域の大分市、犬飼町、野津町、千歳町、大野町、緒方町などの丘陵地。人類文化が広く及び、諸処にアラカシージャノヒゲ群集、コジイ群落、スダジイ・ヤブコウジ群集などが残るが、景観は二次的要素のシイ・カシ萌芽林やスギ・ヒノキ林、クヌギ林、竹林などで支配されている。

林内・林縁：アズマガヤ、ジングウスゲ、モエギスゲ、マイヅルテンナンショウ、ヒメウラ

シマソウ、ナンゴクウラシマソウ、アキザキヤツシロラン、ホソバナコバイモ、フウラン、ナラガシワ、**タイワントリアシ**、ミヤコミズ、ミヤコアオイ、サンヨウアオイ、マルミノヤマゴボウ、カザグルマ、ユキワリイチゲ、バイカイカリソウ、マルバコウツギ、エドヒガン、フジキ、クロタキカズラ、トチノキ、ヤマゼリ、トキワカモメヅル、ホタルカズラ、タニジャコウソウ、ツルアキノタムラソウ、ヤマホオズキ、スズムシバナ、△ウスユキムグラ、オヤマムグラ、ルリミノキ、ウスゲタマブキ、コバナガクビソウ、カシワバハグマ

草地・湿地：ヒメユリ、シラン、ヤマサギソウ、フクジュソウ、ツクシボウフウ、△**ロクオンソウ**、マルバノサワトウガラシ、ヒゴタイ
岩場：シラン、コバノチョウセンエノキ

4. 県東地域

(1) 豊後水道域

佐賀関半島・高島から蒲江町宇戸崎の宮崎県境までの豊後水道域。中央構造帯の外帯で古生代・中生代の堆積岩や変生岩が侵食されたリアス式海岸で、多くの岬や入り江、島々が浮かぶ。黒潮が流入し、気候は温暖、年平均気候17℃、冬の季節風を受けない無霜地帯も含まれる。暖地植物が多く、この地域を特徴づける植物を多産し、この地域に専在する植物も多い。

岬や島にはスダシイ・タイミンタチバナ群集、タブーホソバカナワラビ群集、ヤブニッケイ群落が発達し、ハマビワ・オニヤブソテツ群集、ウバメガシ・コシダ群集、シャリンバイ群落、ハマヒサカキ群落、マサキ・トベラ群落などの海岸低木林やダンチク群落が茂る。海岸入り江などの砂浜にはコウボウムギ群落、ハイキビ群落、チガヤ・ハマゴウ群集、ダンチク群落などや、岩場にアシズリノジギク群落、ヒゲスゲ群落、イソヤマテンツキ群集などがみられる。林内・林縁：ピロウ、**タキキビ**、ミチシバ、キボウシノ、キノクニスゲ、△**センダイスゲ**、**オキノシマテンナンショウ**、ナンゴクウラシマソウ、ノシラン、**アオノクマタケラン**、ア

キザキヤツシロラン、**ガンゼキラン**、**ナギラン**、**ナゴラン**、**ボウラン**、**ムヨウラン**、**センリョウ**、**ハナガガシ**、**カカツガユ**、**ハドノキ**、**ヤナギイチゴ**、**サンヨウアオイ**、**フジセンニンソウ**、**シオミイカリソウ**、**ヒメイカリソウ**、**オガタマノキ**、**コウシュウヤク**、**バリバリノキ**、**ハマビワ**、**シマキケマン**、**バクチノキ**、**ハチジョウイチゴ**、**ホウロクイチゴ**、**ツクシハギ**、**ハカマカズラ**、**タチバナ**、**ハマセンダン**、**カンコノキ**、**ミヤマシキミ**、**ヒトツバハギ**、**ヒゼンマユミ**、**シヨウベンノキ**、**ウドカズラ**、**ケサンカクツル**、**コバンモチ**、**シマサルナシ**、**ハチジョウキブシ**、**マルバグミ**、**マルバアキグミ**、△**ヒメノボタン**、**オオツルコウジ**、**モクタチバナ**、**タイミンタチバナ**、**トキワガキ**、**リュウキュウマメガキ**、**カンザブロウノキ**、**ミミズバイ**、**オオバイボタ**、**コフジウツギ**、**オキナワシタキヅル**、**コカモメヅル**、**トキワカモメヅル**、**オオムラサキシキブ**、**シヨウロウクサギ**、**メジロホオズキ**、**ルリミノキ**、**ミサオノキ**、**カギカズラ**

海岸崖地：**ビヤクシン**、**アイアシ**、△**コササキビ**、**シオカゼテンツキ**、**ダンチク**、△**ピロウドキビ**、**ハチジョウススキ**、**ヤマカモジグサ**、**イソヤマテンツキ**、△**ノゲヌカスゲ**、**ハマアオスゲ**、**ヒゲスゲ**、**モエギスゲ**、**マルバツユクサ**、**オニツルボ**、**キキョウラン**、**キバナコオニユリ**、**クサスギカズラ**、**ケイピラン**、**ハマカンゾウ**、**ハマオモト**、**ムカデラン**、**ニラバラン**、**サダソウ**、**ウバメガシ**、**アコウ**、**オオノマオ**、**トガリバヤブマオ**、**ツルソバ**、△**ヒメハマナデシコ**、**ハチジョウイノコズチ**、**ハマツメクサ**、**ハスノハカズラ**、**ミヤコジマツツラフジ**、**ハマビワ**、**ツクシケマン**、**ハマダイコン**、**タイトゴメ**、**ツメレンゲ**、**マルバマンネングサ**、**シャリンバイ**、**クズモダマ**、**ツクシハギ**、**ハマナタマメ**、**マルバキハギ**、**イワタイゲキ**、**ハマナツメ**、**ハマヒサカキ**、**ヒュウガトウキ**、**オンツツジ**、**トサノミツバツツジ**、**フジツツジ**、**ボタンボウフウ**、**ハマボッス**、**イヨカズラ**、**クロバナイヨカズラ**、**アオイゴケ**、**ノアサガオ**、**マルバチシャノキ**、**コ**

パノタツナミ、ヒメキセワタ、クルマバアカネ、ソナレムグラ、アシズリノジギク、アゼトウナ、ウスベニニガナ、クマノギク、セトノジギク、ソナレノギク、ノジギク、ヤクシアゼトウナ、ヤナギアザミ

砂浜・塩湿地：ケカモノハシ、コウボウシバ、ナガミノオニシバ、ハイキビ、ハマヒエガエリ、シオクグ、ヒトモトススキ、ミクリガヤ、ハママツナ、ツルナ、ハマエンドウ、ハマボウ、アツバスマレ、ハマボウフウ、ルリハコベ、ハマサジ、ハマヒルガオ、グンバイヒルガオ、ハマゴウ、コナミキ、ナミキソウ、ウラギク、ハマニガナ、ハマグルマ

(2) 豊後水道後背地域

豊後水道域後背地の山岳地及び番匠川上流域の低地、丘陵地。鎮南山 (536.4m)、彦岳 (639.3m)、尺間山 (620m)、場照山 (661m) 及び酒利岳 (753.2m) などを含める。一帯の森林植生は、アラカシージャノヒゲ群集、コジイークロバイ群集で、その殆どはスギ植林地に代っている。時に、マテバシイ群落、イチイガシ群集、ナガバガシ群落がみられる。本匠村などには石灰岩地域がある。

林内・林縁：ピロウドキビ、ハイチゴザサ、ホソバズダケ、ナリヒラタケ、△ウマスケ、サツマスゲ、ヌカスケ、キリシマエビネ、キエビネ、ユウシュラン、ボウラン、ガンゼキラン、センリョウ、イチイガシ、マテバシイ、ハナガガシ、カカツガユ、△ツクバネ、サンヨウアオイ、ツチトリモチ、フジセンニンソウ、ヒメイカリソウ、バリバリノキ、ガクウツギ、ツクシチャルメルソウ、オオバライチゴ、ツクシサクライバラ、ミヤマトベラ、ヒトツバハギ、タマミズキ、ウドカズラ、サザンカ、イイギリ、タイミンタチバナ、モロコシソウ、トキワガキ、リュウキュウマメガキ、カンザブロウノキ、クロバイ、シロバイ、ミミズバイ、コフジウツギ、オキナワシタキヅル、コカモメヅル、トキワカモメヅル、トサムラサキ、タニジャコウソウ、カギカズラ、タマゴバアリドウシ、ナガバジュズネノキ、サツマルリミノキ、ルリミノキ、ミサオノキ、

ヘツカニガキ、ウスベニニガナ

岩場：ウンヌケ、ウンヌケモドキ、ケイビラン、シラン、ミヤマムギラン、セッコク、ベニカヤラン、△ゴシヨイチゴ、イブキシモツケ、シマサクラガンピ、トサノミツバツツジ、ヒュウガミツバツツジ、アラゲミツバツツジ、フジツツジ、オンツツジ、コバナタツナミ、シコクママコナ、オニツクバネウツギ、ノジギク、キクアザミ

河川：セキシヨウモ、コギシギシ、ヒメバイカモ、タコノアシ、ヒメシロアサザ、アサザ、オオルリソウ、キクモ

5. 県南地域

(1) 大野川上流域

一帯は阿蘇溶岩台地で、上辺は火山灰層で覆われている。清川村御嶽山 (560m)、神角寺溪谷、白水ノ滝などを含めてある。植生は、低地にアラカシージャノヒゲ群集、コジイ群落、スタジイ群落、溶岩台地にコナラ群落やクヌギ群落が広がっている。尾根筋にアカガシーミヤマシキミ群集、アカマツーオンツツジ群集がある。溪谷にはアワモリショウマ群落やツルヨシ群集がみられる。

林内・林縁：キリシマシャクジョウ、ナゴラン、ムカゴサイシン、フウラン、ナラガシワ、ツクシオオナラ、ホソバイラクサ、ユキワリイチゲ、アオベンケイ、ヤシャビシャク、キヨスミウウツボ、ヨツバムグラ

岩場：ケイビラン、ヒュウガギボウシ、クモラン、マメツタラン、ムギラン、ノグルミ、マツグミ、コウライビシ、タンナトリカブト、サザンカ、オニシバリ、シマサクラガンピ、アラゲミツバツツジ、オンツツジ、カラムラサキツツジ、トサノミツバツツジ、ヤマジソ、ヤマヒョウタンボク、キクアザミ

溪流辺：ヒロハノドジョウツナギ、ウラゲスズダケ、ナリヒラタケ、ヤシャダケ、イワカンズゲ、タシロスゲ、△ツクシイヌイ、アケボノシュスラン、セイタカスズムシソウ、オオバヤマミズ、チョクザキミズ、ヤナギヌカボ、ユリワサビ、アワモリショウマ、ギンバイソ

ウ、フジキ、ユクノキ、サイカチ、ミツデカエデ、メグスリノキ、トチノキ、アオカズラ、ハガクレツリフネ、ウラゲウコギ、ミヤマコナスビ、シノノメソウ、ホタルカズラ、キバナアキギリ、ウスバヒョウタンボク、マンセンレンブクソウ、シデシャジン、シオン

草地：コウボウ、オオバアズマザサ、ノヒメユリ、ヒメユリ、シモツケソウ、オオバクサフジ、キスミレ、ヤツシロソウ、カセンソウ、タカサゴソウ、ヒゴタイ、ヒロハヤマヨモギ

(2) 祖母・傾山地

熊本県境の越敷岳 (1,043.2m)、祖母山 (1,757m)、傾山 (1,602.2m) などが連なる山岳地帯。海拔800～1,700mの急峻な山と深い溪谷とを擁し、ニホンカモシカなどの大型哺乳類が生息する。山岳の下方からウラジロガシサカキ群集、モミーシキミ群集、ツガーハイノキ群集、ブナースズタケ群集の垂直分布が明瞭である。尾根や山頂の岩場には、アカマツ・オンツツジ群集、ヒメコマツ群落、ハリモミ群落が発達している。一帯のかなり広い自然林は伐採され、スギ植林に代えられている。この地域では、四国、紀伊半島に分布域をもつ襲速紀(ソハヤキ)要素の植物が特徴的である。

林内・林縁：モミ、ツガ、ホガエリガヤ、ヒメノガリヤス、スズダケ、ツクバスケ、シコクヒロハテンナンショウ、ツクシヒトツバテンナンショウ、ヒロハテンナンショウ、シロバナエンレイソウ、バイケイソウ、ユウシュラン、ササバギンラン、△マルバサンキライ、オオハクウンラン、ショウキラン、△ジガバチソウ、△ソハヤキトンボソウ、△ミヤマフタバラン、イヌブナ、ブナ、マツグミ、タンナトリカブト、△オオバメギ、ルイヨウボタン、オオヤマレンゲ、シロモジ、ヒメクロモジ、ヤシャビシャク、マンサク、フウリンウメモドキ、△ナンゴクミネカエデ、ヒコサンヒメシャラ、ヒメシャラ、シコクスミレ、ウラジロウコギ、ウメガサソウ、マルバノイチヤクソウ、コハクウンボク、ミツデコトジソウ、ミヤマナミキ、キリ、オオキヌタソウ、ミヤマヤブタバコ

尾根岩場：アカマツ、ハリモミ、ヒメコマツ、△コウヤマキ、△ツクシビャクシン、ネズ、ヒノキ、カリヤスモドキ、△コメススキ、コハリスゲ、タシロノガリヤス、コイワカンスゲ、ヒナスゲ、ミヤマイワスゲ、ウバタケギボウシ、ケイビラン、ササユリ、タマガワホトトギス、ヒュウガギボウシ、△ホトトギス、キソチドリ、ムカデラン、ヤマグルマ、タマカラマツ、△モミジカラマツ、ミヤマカラマツ、チャボツメレンゲ、ダイモンジソウ、ヤマブキショウマ、イワキンバイ、コミヤマカタバミ、コウライトモエソウ、△クモイオトギリ、タカネオトギリ、キガンピ、シマサクラガンピ、ミヤマガンピ、イワセントウソウ、ウバタケニンジン、イワカガミ、マルバノイチヤクソウ、アクシバ、ウスノキ、オンツツジ、コメツツジ、ツクシアケボノツツジ、ツクシシャクナゲ、ツクシドウダン、トサノミツバツツジ、ナツハゼ、バイカツツジ、ヒカゲツツジ、フジツツジ、ミヤマキリシマ、ヤクシマホツツジ、ヨウラクツツジ、オニイボタ、フジイボタ、△ハナシノブ、△アツバママコナ、シコクママコナ、△ツクバネウツギ、△ヤツシロソウ、キリシマヒゴタイ、シコクコウモリソウ、ヒロハヤマヨモギ

溪谷・溪流辺：サワグルミ、オヒョウ、クロフネサイシン、ワチガイソウ、カツラ、△モミジカラマツ、ヤマシャクヤク、ユリワサビ、アワモリショウマ、キレンゲショウマ、クロクモソウ、ツクシチャルメルソウ、ヒメウツギ、ヤハズアジサイ、ワタナベソウ、フジキ、テツカエデ、ハガクレツリフネ、ウラジロウコギ、イワセントウソウ、△オニノダケ、ミヤマノダケ、ヤマゼリ、ミヤマコナスビ、ハクウンボク、シオジ、シノノメソウ、オオマルバノテンニンソウ、ミツデコトジソウ、ヒナノウスツボ、コクワガタ、シデシャジン、オオモミジガサ、テバコモミジガサ、ニシノヤマタイミンガサ、モミジハグマ

(3) 北川上流域

宇目町一帯の山岳地域で、宮崎県側に流れる北川上流域。夏木山 (1,386m)、桑原山 (1,408m)、

鷹鳥屋山 (639m) などに囲まれる藤河内溪谷、鋸切谷、(切込溪谷；鯉川) など花崗岩が露出する深い谷がある。コジイ群落、ウラジロガシーサカキ群集、アカガシーミヤマシキミ群集、ブナースズダケ群集、尾根部にアカマツーオンツツジ群集、ヒメコマツ群落、ヒノキ群落などがみられる。

林内・林縁：モミ、ツガ、ジングウスゲ、オオバジャノヒゲ、キリシマシャクジョウ、△カシノキラン、セッコク、ショウキラン、タシロラン、ナゴラン、ボウラン、ヨウラクラン、イスブナ、ウラジロガシ、シリブカガシ、ブナ、コバノチョウセンエノキ、クロフネサイシン、サンヨウアオイ、ツチトリモチ、シロモジ、ヤシャビシャク、ナリヒラモチ、サザンカ、ナツツバキ、ヒメシャラ、シコクスミレ、ヒカゲスミレ、バйкаツツジ、タイミンタチバナ、モロコシソウ、ケミヤマナミキ、トキワガキ、リュウキユウマメガキ、カンザブrouノキ、シロバイ、アオホオズキ、キリ

尾根岩場：アカマツ、ヒメコマツ、ヒノキ、タシロノガリヤス、チョウセンガリヤス、ヒメノガリヤス、ヒナスゲ、ケイビラン、ササユリ、ヤマグルマ、タカネマンネングサ、キガンピ、シマサクラガンピ、ミヤマガンピ、イワカガミ、ウスゲミツバツツジ、ウスノキ、ウンゼンツツジ、オンツツジ、ケアクシバ、コメツツジ、トサノミツバツツジ、ツクシアケボノツツジ、ナンゴクミツバツツジ、ヒカゲツツジ、フジツツジ、ヤクシマホツツジ、ヨウラクツツジ、コハクウンボク、シコクママコナ

溪流・溪流辺：ホソバスズダケ、ツクバスゲ、コハリスゲ、ツルナシオオイトスゲ、フサナキリスゲ、ミヤマジュズスゲ、ケイビラン、タマガワホトトギス、ホソバナコバイモ、ヒュウガギボウシ、バイケイソウ、オオキツネノカミソリ、シラン、サワグルミ、オヒョウ、イワガネ、ボロボロノキ、ワチガイソウ、カツラ、シギンカラマツ、バリバリノキ、アワモリショウマ、ガクウツギ、ギンバイソウ、クロクモソウ、ツクシチャルメルソウ、ツク

シネコノメソウ、バйкаアマチャ、ブンゴウツギ、ヤハズアジサイ、オオバライチゴ、コジキイチゴ、ミヤマトベラ、コミヤマカタバミ、タマミズキ、サワダツ、ハガクレツリフネ、ウドカズラ、イイギリ、ミヤマコナスビ、オオバアサガラ、シオジ、コフジウツギ、シノメソウ、ツクシガシワ、スズコウジュ、ツクシタツナミソウ、ヤマトウバナ、ヒナノウスツボ、ツクバネウツギ、オオモミジガサ、テバコモミジガサ、ニシノヤマタイミンガサ、ホソバコンギク、モミジハグマ

6. 石灰岩地域

津久見市の胡麻柄山・碁盤ヶ岳、臼杵市東神野、野津町西神野・泊、佐伯市狩生、本匠村風戸・小半、酒利岳、三重町大白谷などには、石灰岩の露出地域があり、ナンテンやビワなどを伴うアラカシーナンテン群集やアキニレ群落、イヌガヤ群落がみられる。

林内：イヌガヤ、ホソバヒカゲスゲ、サツマスケ、ヒナラン、タガネラン、アキニレ、ナンテン、バйкаウツギ、ヤブサンザシ、ビワ、モモ、カラナワシロイチゴ、ユズ、ヒトツバハギ、カントウマユミ、ネコノチチ、イソノキ、サザンカ、モロコシソウ、ヤナギイボタ、ヤマタツナミソウ、ヘツカニガキ、ウラジロヤナギアザミ、ヒナヒゴタイ

岩場：オオクサボタン、シロバナハンショウツル、コミノヒメウツギ、イブキシモツケ、イワツクバネウツギ

文 献

(文献は地域区別に発行年の新しい順に掲載してある)

〈全域〉

荒金正憲 1995 「大分県産植物の分布型について (II)」『別府大学短期大学部紀要』 14 1-16

大分県植物誌刊行会 1989 「大分県産植物の概要 種子植物」「植物目録 種子植物」『新版大分県植物誌』 130-145 286-619

荒金正憲 1981 「湿原の植生とフロラ」

『大分県の生物』日本生物教育会大分大会記念誌

20-23

荒金正憲ほか 1981 『大分の植物』おおいた文庫⑦
233pp.

大分県植物誌刊行会 1980『大分県産植物目録』
150pp.

大分県教育委員会 1980『植物』『おおいたの風土と
文化』大分県総合博物館(仮称)基本構想策定資
料 19-28

大分県 1973『大分県の気候誌』357pp.

田代晃二 1973『田代善太郎日記 昭和編』
22-752

田代晃二 1972『田代善太郎日記 大正編』
30-441

田代晃二 1968『田代善太郎日記 明治編』
26-527

山本義光編 1953『大分県植物誌』435pp.

和田信一編 1923『大分県産植物総目録』66pp.

〈1. 県北地域〉

荒金正憲 1996『大分県北部海岸の植物群落』『別
府大学短期大学部紀要』15 1-16

荒金正憲・辻 寛文 1996『夷耶馬・鷲巢岳地域の
維管束植物フロラ』『夷耶馬・鷲巢岳地域自然環境
学術調査報告』大分県・香々地町・国見町
39-52

荒金正憲・小田 毅 1995『宇佐・院内・安心院地
域の植物』『宇佐・院内・安心院地域-自然・社
会・教育-』大分大学教育学部 111-124

荒金正憲 1995『深耶馬溪の維管束植物フロラ』
『深耶馬溪地域自然環境学術調査報告書』大分
県・玖珠町・耶馬溪町 39-65

荒金正憲・辻 寛文 1995『大分県におけるオニバ
スの産地』『大分県の植物』大分県植物研究会 5
17-21

川田 計 1995『速見地域におけるアリドオシ属植
物とその分布』『大分県の植物』大分県植物研究会
5 11-16

川田 計 1994『日出町の注目すべき植物(2)』
『大分県の植物』大分県植物研究会 4 11-
13

荒金正憲・生野喜和人・辻 寛文 1994『中山仙峡の
植生とフロラ』『大分県の植物』大分県植物研
究会 4 3-10

川田 計 1993『日出町の注目すべき植物(1)』
『大分県の植物』大分県植物研究会 3 17-
19

荒金正憲・藤内広三 1992『国見町権現崎の植生とフ
ロラ』『権現崎地域自然環境調査報告書』1-

26

梅津幸雄 1991『豊後高田市桂川河口付近の塩性湿
地植生』『大分県の植物』大分県植物研究会 1
7-10

荒金正憲・小田 毅・藤内広三 1986『日出町植物目
録』『日出町誌 本編 資料』日出町 2-40

院内町誌刊行会 1983『院内町の植物』『院内町誌』
院内町 18-34

荒金正憲・大上和宏 1979『県北地方ため池の維管
束植物フロラ』『大分県自然環境保全地域候補地調
査報告書(県北地区)-宇佐神宮・御許山・高森
の大池・御澄池-』大分県 79-85

小田 毅・高岡芳憲・藤内広三 1979『宇佐神宮と御
許山の維管束植物フロラ』『大分県自然環境保全地
域候補地調査報告書(県北地区)-宇佐神宮・御
許山・高森の大池・御澄池』大分県 69-78

〈2. 県西地域〉

初島住彦 1997『大分県産植物の新分布(2)』『大
分県の植物』大分県植物研究会 7 13-17

初島住彦 1996『大分県産植物の新分布』『大分県
の植物』大分県植物研究会 6 10-12

小野 孝ほか 1994『御前・釈迦岳の維管束植物フ
ロラ』『御前・釈迦岳の自然』郷土日田の自然調査
会 55-99

小野 孝 1991『大分県西部(日田・玖珠)地域に
おけるハギ類の分布について』『大分県の植物』
大分県植物研究会 1 1-6

小野 孝ほか 1990『花月川上流地域のフロラ』
『花月川上流地域の自然』郷土日田の自然観察会
49-82

小野 孝ほか 1987『日田三丘の維管束植物フロラ』
『日田三丘(日隈, 月隈, 早隈)の自然』郷土日田
の自然観察会 31-62

右藤大一・小野 孝ほか 198『三隈川河川敷の維
管束植物フロラ』『三隈川の自然調査報告』郷土日
田の自然調査会 31-58

高岡芳憲・荒金正憲ほか 183『耶馬日田英彦山国
定公園の特徴的な維管束植物フロラ』『耶馬日田英
彦山国定公園学術調査報告書』大分県 43-54

荒金正憲・生野喜和人 1981『津江山地の植生とフ
ロラ』『日田郡の文化財』大分県文化財調査報告
書 大分県教育委員会 51 1-83

荒金正憲・小田 毅・高岡芳憲 1980『日田地区の維
管束植物フロラ』『大分県自然環境保全候補地調査
報告書(日田地区)-日田盆地・大鶴谷・松原・
下笠ダム-』大分県 77-93

荒金正憲・生野喜和人 1980『前津江村の自然と植生』

- 『前津江の文化財』 大分県文化財調査報告書 大分県教育委員会 43 1-20
- 山国町植物愛好会 1979 山国町植物誌 山国町郷土叢書 4 179pp.
- 小田 毅・生野喜和人 1977 「福万山の植生とフロラ」『大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(玖珠地区) - 福万山・日出生台・鳴子川溪谷・地蔵原湿原 -』大分県 6 1-75
- 荒金正憲 1997 「九州北東部火山地域における森林植物群落の類似性」『別府大学短期大学部紀要』16 1-14
- 荒金正憲 1995 「賀来飛霞の『油布嶽採葉図譜』考」別府大学紀要 36 69-96
- 初島住彦 1995 「九州における満鮮系植物について」『大分県の植物』大分県植物研究会 5 1-10
- 荒金正憲・生野喜和人・中山孝則・小田 毅 1993 「猪の瀬戸湿原及び周辺地域の植生図示と植物相」『猪の瀬戸湿原自然環境学術調査報告書』大分県・別府市 59-85
- 荒金正憲・小田 毅・生野喜和人 1992 「小田の池及び周辺地域の植生とフロラ」『小田の池自然環境学術調査報告書』大分県・湯布院町 29-62
- 荒金正憲・小田 毅 1991 「日向岳の植物」『別府の文化財』別府市教育委員会・別府市文化財調査会 1-8
- 荒金正憲 1990 「九重山の植物」『日本の生物』4 (3) 19-26
- 荒金正憲 1988 「くじゅう地域の注目すべき種子植物」『阿蘇くじゅう国立公園地域学術調査報告書』大分県 57-68
- 須股博信・阿部康雄 1977 「鳴子川溪谷の自然林植生とフロラ」『大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(玖珠地区) - 福万山・日出生台・鳴子川溪谷・地蔵原湿原 -』大分県 77-92
- 荒金正憲 1977 「湿原の植生とフロラ - 日出生台湿原・地蔵原湿原 -」『大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(玖珠地区) - 福万山・日出生台・鳴子川溪谷・地蔵原湿原 -』大分県 93-107
- 鈴木時夫・荒金正憲 1968 「くじゅう火山群の維管束植物フロラ」『くじゅう総合学術調査報告書』大分大学教育学部 81-123
- T.藤元平 1965 『久住山志 植物編』藤井書店 205pp.
- 賀来飛霞 1840 『油布嶽採葉図譜』乾・坤

<3. 県中地域>

- 荒金正憲・辻 寛文 1994 「別府市の植物相(フロラ)」『別府の自然』別府市自然環境学術調査報告書 別府市 223-259
- 野津町 1993 「植物」『野津町誌(上)』55-91
- 生野喜和人・大上和宏 1993 「七瀬川流域の種子植物フロラ」『大分県生物談話会会誌』大分県生物談話会 5 3-30
- 荒金正憲・高岡芳憲・藤内広三 1981 「豊肥地区の維管束植物フロラ - 宮尾国有林・穴権現・中津無礼川流域 -」『大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(豊肥地区) - 宮尾国有林・中津無礼川流域・大野川中流域 -』大分県 83-103
- 生野喜和人・大上和宏 1981 「種子植物フロラ」『大分川流域の生物』大分県生物談話会 3 41-66
- 賀来飛霞 1952 「杵築採葉記」
- <4. 県東地域>
- 初島住彦 1997 「オオノマオについて」『大分県の植物』大分県植物研究会 7 1-7
- 真柴茂彦・荒金正憲 1994 「蒲江町深島・屋形島・名護屋地域の植物相(フロラ)」『蒲江町深島・屋形島・名古屋地域自然学術調査報告書』大分県 77-96
- 初島住彦 1992 「九州のキブシ類について」『大分県の植物』大分県植物研究会 2 1-4
- 臼杵市 1990 「植物」『臼杵市史上』76-111
- 荒金正憲・高岡芳憲・真柴茂彦 1985 「日豊海岸地域の維管束植物フロラ」『日豊海岸国立公園学術調査報告書』大分県 69-70
- 荒金正憲・高岡芳憲・真柴茂彦 1978 「県南地方の維管束植物フロラ - 城山・城八幡と八坂神社・切込国有林・鷹烏屋山 -」『大分県自然環境保全地域候補地調査報告書 - 佐伯城山・城八幡・鷹烏屋山・切込国有林 -』大分県 71-89
- <5. 県南地域>
- 荒金正憲・小田 毅・高岡芳憲・真柴茂彦 1984 「祖母傾国立公園の維管束植物」『祖母傾国立公園学術調査報告書』大分県 59-70
- 伊東金十 1980 「竹田市・直人郡自生植物分布図」74×92cm 地図 1 葉
- 荒金正憲・小田 毅 1976 「祖母山系の維管束植物フロラ」『祖母傾地域の自然環境保全調査報告書』大分県 55-66
- <6. 石灰岩地域>
- 初島住彦 1993 「九州のヒメウツギについて」『大分県の植物』大分県植物研究会 3 1-4